

■木村謙次 儒学者。凶作対策に地元提案の稗倉を藩主が採用して成果、「足民論」による農政改革から、蝦夷地防衛に展開。

きむらけんじ

1752=

常陸国久慈郡天下野で、近江源氏佐々木氏の子孫で、江戸時代に農業に転じて大豪族となっていた木村家の昌尚の第四子に生まれる。

幼時から、神童の誉れ高かったが、

大岡忠光没・1760= 8歳 :

1761= 9歳 :

近くの寺の僧大雲について読み書きを学ぼうち、

その才能が認められ、

意次側用人・1767=15歳 : 大雲の紹介で、水戸藩第一の儒学者立原翠軒の門人となり、谷田部東壑について医学も学び始める。

往復60kmを通過し、勉学に励むうち、東壑の師吉益東洞を尊敬するようになり、

どうしても会いたくなって、

1770=18歳 :

翠軒に願い出、誰か同伴者をと言うのもかまわず、その場で京都に旅立ち、東洞入門。

必死に勉学する間、丹波の凍結コンニャクのことを知って、その製法・販売法も習得して、

田沼意次老中1772=20歳 :

帰郷。

大原騒動・1773=21歳 :

この年、東洞が死去。

黄表紙始・1775=23歳 :

翠軒の紹介で、藩医原南陽に入門して、医学の研究を進め、

源内獄中死・1779=27歳 :

この間、凶作対策に地元提案して建設された稗倉を水戸藩主徳川治保が採用して藩内各所に設置、

蘭学階梯・1783=31歳 :

藤田幽谷邸で蒲生君平に会って意気投合し、以後親交。**\*天明の大飢饉が始まり、奥州中心に餓死者が続出するなか、藩では稗倉を開放するなどして餓死者を出さず、**

蝦夷初調査・1785=33歳 :

出羽三山参詣を思い立って、帰路、松島・仙台を旅する。

田沼意次失脚1786=34歳 :

この年、師翠軒が彰考館総裁となり、幕府では田沼意次が失脚、

寛政改革始・1787=35歳 :

老中に松平定信が抜擢されて、寛政の改革が始まる。

1788=36歳 :

初の横綱・1789=37歳 :

**\*藩主に農政改革を訴えようと、それまで学んだことを結集した「足民論」が完成、**

異学の禁・1790=38歳 :

**久慈の孝子を顕彰した「孝子音吉伝」を書いて、賞した藩主から謁見の榮に浴し、高山彦九郎の来訪を受け、肝胆相照らす仲となる。この前後、集中的に孝子節婦の話を書く。**

混浴禁止・1791=39歳 :

師原南陽から、前年「足民論」を藩主に届けたことを知らされる。

以後は、師翠軒に勧められてロシアから蝦夷地を守ることに転じ、

松平定信引退1793=41歳 :

蝦夷地探偵に松前まで行き、その日記「北行日録」は当時の蝦夷地を知る好史料となっている。

この間も、凍結コンニャクの研究を続け、

写楽・1795=43歳 :

根本喜兵衛に伝授、以後、天下野の特産物となって行く。

昌平饗始・1797=45歳 :

古事記伝・1798=46歳 :

**\*近藤重蔵の蝦夷地調査に加わり、医者として探検中に近藤らを治療して助け、択捉島に建てた「大日本恵土呂府」の題字を揮毫。**

いざ乃報復・1806=54歳 :

ゴロブニ拿捕 1811=59歳 : 没した。